

# 令和5年度 女性と語るまちづくりトーク 取組状況一覧表

令和7年4月時点

<予算措置の分類>

○：予算措置あり（過年度を含む）、—：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	意見・提案等 (内容)	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
1	病気やケガ、認知症などで介護や支援が必要な高齢者がいる。介護保険制度は、日常生活が継続できるように支援を行うサービスであるが、「遊びに行きたい」「自分で買い物したい」など娯楽的な支援がない。小学校区ごとに決められた目的地と自宅を結び「いこまいかー」を目的地を限定せず、普通のタクシーのように利用できないか。	公共交通サービスにはそれぞれの役割があり、「いこまいかー」は地域の目的地と自宅を結びサービスで一定の制約がかかるため、市内全域での展開は難しい。 吉良地区では、「いこまいかー」の目的地を拡充したことで利用者が増えた。地区の中での目的地は、町内会長はじめ民生委員など地域の方と相談しながら決めている。地域の中で要望が高い目的地を検討していただくことで、利用しやすくなると思う。	地域つながり課	—	D	
2	「いこまいかー」をユニバーサルデザインの車両にしないか。	車いすに対応したユニバーサルデザインの車両は一定数あるといいと思う。まずは、タクシー会社側の意見を聞く。 【追記】ユニバーサルデザインタクシーの導入実績について 名鉄東部交通 20台/30台保有 西尾交通 3台/7台保有 アイアイ 5台/6台保有 ※地域つながり課より情報提供。いずれも、5年度中の導入分を含むR6.3月末の数値	地域つながり課	○	A	
3	日常的に介護支援を受けている方の中には、外出したくても家族の都合が悪く外出できない方もいる。自分で買い物に行きたいと思っている人は多い。高齢者や要介護者が外出できる機会を創出するため、地区などを限定しても良いので、「市内買い物ツアー」のようなものを企画しないか。ここでの提案は、歩けない方や車いすでしか移動できない方を対象としたもので、介添えする人も乗れるような車を想定。	買い物などはインターネット通販などで代替が可能と考えるが、インターネットを使い慣れていない方もいる。高齢者の外出先としては、「まちの体操教室」や「高齢者通いの場」などのサービスを展開しており、自宅から5～10分程度の場所で開催されている。	長寿課	○	A	
4	市内各所に観光スポットがあり、その魅力を積極的にPRしているが、なかなか知名度が向上しない。観光地へ行くまでの交通手段が不足している。三重県多気町のVISONをイメージ（敷地内には道の駅、無農薬農園、温泉、遊具などが点在）したような、市として注力する大規模観光拠点を整備し、そこを中心としたまちづくりを進めないか。また、その場所は、愛知こどもの国周辺がいいのではないか。	三重県多気町のVISONを見ても交通アクセスが良い場所に立地している。例えば、本市で立地候補地を考えると道の駅にしお岡ノ山が場所としては可能性はあるが、土地を広げることが難しい。幡豆エリアの寺部地区では、民間の力、特に若い方が中心となって、カフェや農園などができてきており可能性を感じている。佐久島行き渡船場が隣接している一色さかな広場周辺も適地としては可能性ある。公共で大型観光拠点を建設しようとする財源的には難しいが、一色さかな広場のように半分民間、半分公共のように第三セクター方式であれば、経営の中で上手く展開できる可能性はある。	観光文化振興課 農水振興課	—	C	
5	市内観光地へ、例えば、土日のみ西尾駅からシャトルバスを運行してはどうか。一色さかな広場への交通アクセスは悪い。名鉄吉良吉田駅から一色さかな広場までのシャトルバスの運行もいいのではないか。	—	地域つながり課 観光文化振興課	○	A	
6	インバウンド向けにツアー等を考えることはとても大切。一色さかな広場も目的地としては良いが、施設の老朽化が課題。また、トイレやバックヤードが暗くイメージが良くない。店に入りたくなる仕掛けが必要。費用をかけずに、例えば少しペンキを塗るなどお洒落な内装にすることで雰囲気が変わる。 福地のファーマーズマーケットの経営（地元産商品の取扱い、手作りの商品、商品を説明したポップに温かみがあるなど）はとても参考になる。	—	農水振興課 観光文化振興課	—	C	
7	名鉄にしがま線に観光列車を運行してはどうか。	—	地域つながり課	—	D	

# 令和5年度 女性と語るまちづくりトーク 取組状況一覧表

令和7年4月時点

<予算措置の分類>

○：予算措置あり（過年度を含む）、—：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	意見・提案等 (内容)	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
8	一色町の漁業を未来の子どもたちに残したい。核となる場所を考えると一色さかな広場。一色さかな広場の集客アップを狙うターゲット層は、子ども連れの20代~30代のファミリー層で、そこへ向けてのアプローチを強化すべき。一色さかな広場周辺をイベントスペースとして開放してほしい。	愛知県が管理している土地でイベント等をやりたいなどニーズがあれば県に掛け合う。	農水振興課 河川港湾課	—	A	
9	1月末で市内には9か所の子ども食堂がある。概ね中学校区に1か所あると思うが、実際には、子どもたちが歩いて立ち寄れる形が理想で、まだ時間はかかる。企業のSDGs活動が進み、フードバンクへ提供される食材等が減っていると感じる。子ども食堂を運営する側としては、提供される食材等が増えることを望む。子ども食堂の活動について、市から企業等へPRしてもらえるとありがたい。	—	子育て支援課 商工振興課	—	A	
10	フードドライブという言葉を知らない人もいる。学校でフードドライブ活動をしてはどうか。学校が運営することは難しいので、PTAや生徒会、児童会の活動などにあわせてフードドライブ活動をしなさいか。食料品に限らず、制服、学用品などを譲渡できる場があると良い。寄附された品は、フードバンクに寄附し、家庭児童支援課と連携し必要としている方の手に渡すなどの活動が広がるとよい。	—	学校教育課 家庭児童支援課	—	A	
11	フードバンクにしおが実施している「フードチケット」に市から助成をしてもらえないか。現在、市内飲食店の5店舗が「フードチケット」へ協力している。協力店舗を増やすためにも市から「フードチケット」についてアナウンスしてほしい。	—	福祉課	○	A	
12	生活困窮世帯に属する中学生に学習支援や居場所の提供を行うサポートスクール。子どもたちが自転車で行きやすいようにサポートスクールを各中学校区単位で設置してほしい。	支援が必要な方の早期発見、早期支援につなげることが一番大事なこと。縦割りで仕事をしている行政ではあるが、関係部局が連携して情報共有に努めている。しかしながら、行政では発見しきれない場合もある。その部分が民間の活動の中で発見できることもある。子ども食堂の活動も然りではあるが、支援が必要な方などの情報を持っている人たちがひとつのプラットフォームの中で共有し合う仕組みが必要であると感じる。行政内部での仕組みは一度考えたい。	福祉課 子育て支援課 保育課 家庭児童支援課 学校教育課	○	A	
13	各子ども食堂は、代表者それぞれの思いを持って活動している。子ども食堂の運営方針、子ども食堂の場所、対象者などが一覧表になっているマップを作らないか。子ども食堂の存在や活動を多くの方知ってもらうため、市で研修会やフォーラムなどの機会があるとよい。	各子ども食堂で提供できる量が限られているので、広く知らせることで供給が追いつかないなどのデメリットにもなり得るため判断が難しい。 各食堂の役割に合わせて食堂の名前を変える案はどうか。例えば、子どもが対象ならば「子ども食堂」、地域の人なら誰でも受け入れることが可能ならば「地域食堂」のように名称で区別してはどうか。	子育て支援課	—	A	
14	子育てに関して何でも相談できる「子育てコンシェルジュ」を設置してはどうか。	—	子育て支援課 保育課 家庭児童支援課 学校教育課	○	A	

# 令和5年度 女性と語るまちづくりトーク 取組状況一覧表

令和7年4月時点

<予算措置の分類>

○：予算措置あり（過年度を含む）、—：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	意見・提案等 (内容)	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
15	保育士の働き方改革について。午後4時や午後5時、場合によっては延長保育時間後から会議を行っている。子育て中の保育士にとっては働きにくい環境と感じる。2～3時間の短時間で働くことを可能としたり、保育士資格は特に必要としない用務員のような雇用を可能としてはどうか。短時間勤務の職員等が掲示物などを作成することで、他職員の負担が軽減し、園全体として生産性が上がる。短時間勤務の保育士を確保することで職場環境の充実を図ってはどうか。	国が保育士の配置基準を手厚くしようと進めているが、どの自治体も保育士の数が今よりも多く必要となる。また、待機児童を発生させないためには多くの保育士が必要など、保育士の確保に苦慮している。 短大や大学の保育関係学部では定員割れするなど、保育士が減っているため確保が難しい。また、人数（量）にこだわると保育の質の担保ができない。問題意識は持っているため、できる限り採用を進める。	保育課 人事課	○	A	
16	小中学校教諭のメンタルを支える相談体制を作らないか。 学校給食費を無償化しないか。 医療費を18歳まで無料にしないか。	—	学校教育課 教育庶務課 保険年金課	○	A	
17	学童保育の時間、曜日を拡大しないか。	児童クラブは、令和7年度から民間委託に移行する予定。委託後は、午後7時まで受け入れられるようにしていきたいと考えている。	子育て支援課	○	A	
18	ファミリー・サポート・センターについて、手助けしてほしい人と手伝いができる人とのマッチングがなかなか上手くいかない実情がある。手助けしてほしい保護者が簡単に依頼できるようなアプリを作ってはどうか。 また、市が「子育てガイド」を発行しているが、対象年齢の幅が狭く、認知度も低いと感じる。市の子育て支援施策が確認できるような子育てアプリを作ってはどうか。	現在の子育て世代はデジタルが利用できる世代である。行政サービス全般にデジタル化には力を入れて取り組んでいく予定。	情報政策課 福祉課 健康課 子育て支援課 保育課 家庭児童支援課 学校教育課	○	A	
19	性の多様性を尊重しないか	ひとり一人のあり方や考え方を尊重すべきと思う。しかしながら、すべての人に配慮した施策は、膨大なコストがかかる。理想論としては理解している。	地域つながり課 学校教育課	—	A	